Bose® Model 2150 Commercial Power Amplifiers

Owner's Guide

M２１５０取扱説明書

1.0 Safety Information

1.0 ご注意

絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

記号は行為を促す内容を告げるものです。
△（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

CAUTION
感電事故の危険あり
絶対に開けないでください

ご注意: お客様が修理できる部品は、製品内部にはございませんので、感電事故防止のため、本体や背面パネルは絶対に開けないでください。修理が必要な場合は、お買上になったお店かボーズ株式会社までご連絡ください。

注意: 完全に奥まで差し込めないコンセントは、感電の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

CAUTION
RISK OF ELECTRICAL SHOCK
DO NOT OPEN

CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK,
DO NOT REMOVE COVER (OR BACK).
NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE.
REFER SERVICING TO QUALIFIED PERSONNEL.

CAUTION: To prevent electric shock, match wide blade of power plug to wide slot, insert fully.

These CAUTION marks are located on the back of your Model 1800-VI Professional Stereo Power Amplifier.

The lightning flash with arrowhead symbol, within an equilateral triangle, is intended to alert the user to the presence of uninsulated dangerous voltage within the system enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock.

The exclamation point within an equilateral triangle, as marked on the system, is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance instructions in this owner's guide.

お客様メモ

後日修理等の必要が発生したときのためにご記入しておくことをお薦めいたします。

シリアル番号（serial number）：_____

ご購入日：_____ **ご購入店名：**_____

⚠警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●この機器を設置する場合は前面と背面をふさがないでください。前面部から冷却用の空気を吸い込み、背面から排出しています。 ほかのアンプと組み合わせてラックなどに入れるとき冷却用の空気の流れがお互いに干渉しないように注意してください。 次のような使い方はしないでください。 この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
	分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場、プールなどでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。 ●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。
		●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

⚠注意		●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
		●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
		●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。 ●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
		●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
		●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
		●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
		●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

あなたが放送やCD、テープ、又はビデオディスクや市販のソフトテープから録音や録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

Contents

目　次

1.0 ご注意 **2**
2.0　作業を始める前に **5**
2.1 開梱時のご注意 5
2.2 M2150パワーアンプについて 5
3.0 ご使用にあたって **5**
3.1 M2150パワーアンプを使用するにとき 5
3.2 一般的な注意事項 6
3.3 ラックマウントについて 6
3.3.1 ラックマウント時のリアサポートについて **6**
3.4 熱対策について 7
3.5 使用電源の確保について 7
3.6 磁気漏洩について 7
4.0 操作について **8**
4.1 フロント（前面）パネル 8
1 レベルコントロール **8**
2 レベル・インジケーター **9**
3 ステータス・インジケーター **9**
4 データ受信インジケーター **10**
5 スタンバイ・インジケーター **10**
6 電源スイッチ **10**
7 ラックマウント用金具 **10**
4.2 リア（背面）パネル 11
1. 入力モジュール **11**
2. 入力端子 **11**
3. イコライザー出力端子 **12**
4. イコライザーLED **12**
5. スピーカー出力端子 **13**
6. 外部エフェクター(FX)接続端子 **13**
7. ディップスイッチ **13**
FX（エフェクト）ループの IN/OUT 14
クリップ・リミッター 14
ハイパス・フィルターのON/OFF 14
120Hz/80Hz(12dB/octのハイパス・フィルター) 14
8. SEQUENCE(シーケンス)コネクター **15**
一台のアンプをON/OFFするとき: 15
多数のアンプを連動させてON/OFFするとき: 15
他のアンプとシーケンスコントロール機能を使用する場合 17
9. REMOTE LEVEL(遠隔のレベル)コントロール **18**
REMOTE LEVELコントロール配線推薦 18
10 電源コード **19**
5.0 取り付け・装着・結線 **20**
5.1 イコライザーカードについて 20
5.2 入力端子への接続について 21
5.2.1 バランス入力について **21**
5.2.2 アンバランス入力について **22**
5.3 スピーカー出力について 23
5.3.1 スピーカー出力端子の極性について **23**
5.3.2 各設定スイッチの位置詳細図 **24**
5.3.3 ステレオ／モノラルスイッチ **25**
5.4.6 HF（バイアンプ）／Full Range（フルレンジ）スイッチ **25**
5.3.2　ステレオ/モノラル・モードの場合 **26**
5.3.4 ブリッジ・モノラルの場合 **27**
5.3.4　デュアルモノ・モードの場合 **28**
6.0 故障かなと思ったら？ **29**
A.1　2150Iの主な特長 **30**
A.2 仕様 **31**
B.1保証 **32**
B.2修理について **32**

2.0 作業を始める前に

2.1 開梱時のご注意

カートンケースとパッキング類は、輸送用として後日使用できるように、処分せずに保管しておくことをおすすめします。また、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

2.2 M2150パワーアンプについて

ボーズ・M2150 パワーアンプは、一般商業設備用のパワーアンプとして特別に設計されています。厳しい使用に耐えるようにしっかりとした筐体構造になっています。さらに、正確な再生能力と豊かなパワーは、厳しい使用状況を要求される現場においての使用に最適です。

M2150 アンプの定格は、4 Ω、8 Ω、25V、35V、50V、70V あるいは 100V へ 1 チャンネル当たり 150W です。モノラル・ブリッジモードでは 300W の大出力を発揮します。

不意のトラブルから機器を守るプロテクションを装備しています。プロテクションは、異常な発熱、過電流、出力端ショートに対して働きます。入力はバランス方式を採用し、コモンモードノイズに対しても強くなっています。

さらに、各チャンネルごとに別々のイコライザーカードを装着できますので、チャンネルごとに違うイコライジングを行うことができます。

3.0 ご使用にあたって

3.1 M2150パワーアンプを使用するにとき

製品を結線し終わったならば､以下のことも確認してください:

・確認：
全てのスイッチ(STEREO/MONO､CLIPPING LIMITER､EQ BI-AMP/FULL RANGE 、LEVEL DEFEAT)の位置が意図している状態になっているかどうか確認します。

・レベルコントロールを最小にして:
アンプに初めて電源を入れるときは、各チャンネル動作を確認するために、レベルコントロールを最小の状態にして、ひとチャンネルごとに徐々に上げていきます。

・レベルコントロールの調整：
本機はアンプを十分な出力で使用することができるように､入力レベルコントロールを高く設定しています。そのため、通常使用する場合はレベルコントロールつまみは最大の所にしておいてかまいません。

・記録しておきます：
設定が完了したら、メモなどにその設定を書き写しておくといいでしょう。また、フロントパネルに印を付けておくこともおすすめします。

・バイ - アンプモードでは：
バイ - アンプ、マルチ - アンプシステムを組んでいる場合は、低い周波数帯域を再生するアンプから順に音量を下げたり､切ったりすると､それぞれの帯域を受け持っているスピーカーが間違いなく鳴っているか確認しやすくなります。

3.2 一般的な注意事項

⚠ 注意

本製品は熱くならない､適当な風通しのあるところに設置してください。温風の吹き出し口や､暖房器具の上などには設置しないでください。製品の背面や側面､天面などを壁やラックに密着させずに必ず､空気が循環できるように隙間を作ってください。

3.3 ラックマウントについて

ラックマウントする場合は高さ 2U(EIA 規格)、奥行 40.6cm のスペースを必要とします。フロントパネルを 4 本のネジでしっかり止めてください。輸送中のネジのゆるみ止めに、ネオプレーンゴムのワッシャーを使用すると効果があります。

3.3.1 ラックマウント時のリアサポートについて

⚠ 注意

製品をラックマウントした状態で輸送する場合は､必ずパワーアンプの背面部に､他の機器も必要とするようにサポート金具を別途用意することをおすすめします。

3.4 熱対策について

ラックなどに収めることなしに使用する場合の熱についての対策は、アンプのまわりの空気の循環に気をつければ、あえて冷却装置を用意する必要はありません。しかし、これらの一般商業設備用アンプは、放熱のためのスペーサー・パネルなしで互いの上に直接積み重ねて使用される場合があります。このような場合は、お互いの放熱が干渉しないように十分注意してください。ラックにマウントして使用する場合は、前面、および背面に排熱用空気排出孔を設けてください。また、いくつかのアンプとともにラックにマウントして使用する場合は、空気取り入れ口と外付けの排熱用ファンを設置してください。

⚠ 注意

ラックの内部の温度は、室内温度よりも高くなります。本機の筐体温度が最高使用温度の 50℃を越えないように十分気をつけてください。

3.5 使用電源の確保について

ご使用になる電源の電圧と、電流容量が十分であることを必ず確認してください。本製品はAC100Ｖ、50/60Hz、600W（6 アンペア）の電源をご用意ください。

主電源の電源プラグは機器から外せるようにしておき、設置後も容易にそれをメンテナンスできるようにしておいてください。

パワーアンプの消費電力は、負荷のインピーダンス、アンプの出力レベル、およびクレストファクターと再生ソースのデューティーサイクルに依存して変わります。

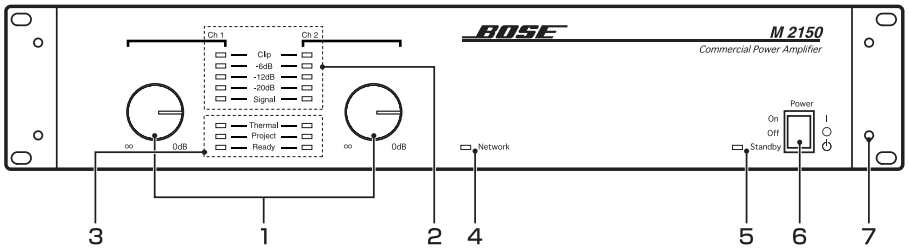
例えば、ロックミュージックを再生した場合を考えてみます。4 Ω負荷の両チャンネル駆動で、レベルを音楽のピークがクリップする直前のとき、M2150 は、平均 5.0A を必要とします。

3.6 磁気漏洩について

本機から漏洩する磁気は問題の起きないレベルですが、一般的にもマイクロフォンのインプット・トランスや磁気を使用した記録媒体など感度の高いものは近づけないことをお薦めいたします。

4.0 操作について

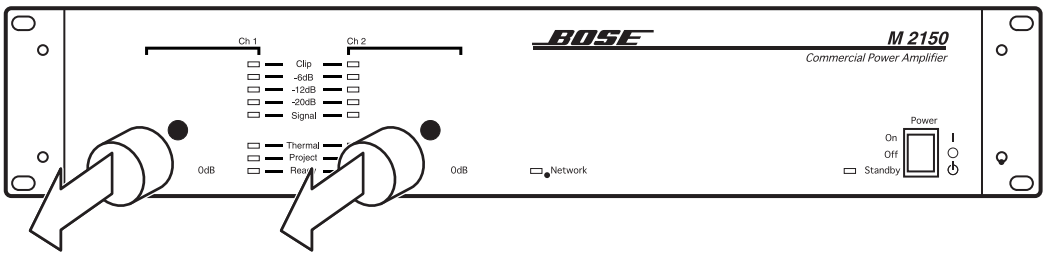
4.1 フロント（前面）パネル

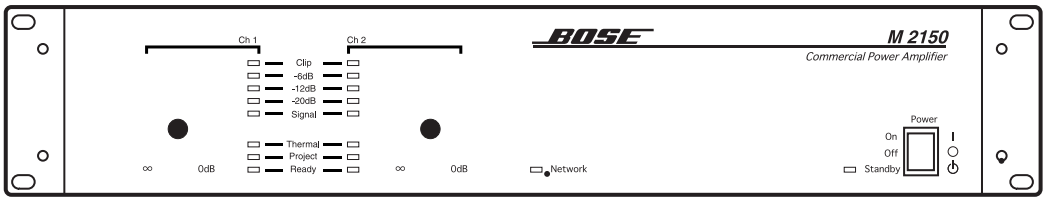


1. レベル（ゲイン）コントロール　**3.** レベル・インジケーター　**5.** スタンバイ・インジケーター
2. ステータス・インジケーター　**4.** データ受信インジケーター　**6.** 電源スイッチ
7. ラックマウント用金具（取り外し可能）

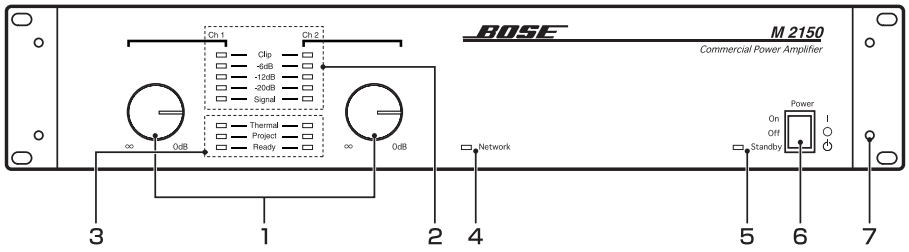
1 レベルコントロール

チャンネル 1 と、チャンネル 2 が独立しています。時計方向に回し切った場合最大になります。反時計方向に回していくにしたがって、出力が減衰していきます。2.5dB ステップで調整ができます。
レベルコントロールのつまみは不用意にレベルを変えてしまうことを防ぐために外すことができます。つまみは、アンプの出力レベルを決めてから外します。外すときは、注意深くつまみを引っ張ってください。外したつまみは後日使用できるように大切に保管しておいてください。つまみを抜き取った穴には、付属のカバーを取り付けておきます。





4.1 フロント(前面)パネル



1. レベル(ゲイン)コントロール
2. ステータス・インジケーター
3. レベル・インジケーター
4. データ受信インジケーター
5. スタンバイ・インジケーター
6. 電源スイッチ
7. ラックマウント用金具(取り外し可能)

2 レベル・インジケーター

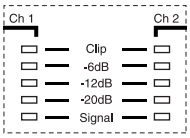


図2のレベルインジケーターはそれぞれのチャンネルの出力レベルを表示します。信号があるレベルを越えるとLEDが点灯します:
チャンネル 1 と、チャンネル 2 が独立しています。時計方向に回し切った場合、最大になります。

- CLIP……信号がクリップすると赤色LEDが点灯します(0dB)。
- ー 6dB……このレベルを超えると黄色LEDが点灯します。
- ー12dB……このレベルを超えると、この位置の緑色LEDが点灯します。
- ー20dB……このレベルを超えると、この位置の緑色LEDが点灯します。
- ー40dB……このレベルを超えると、この位置の緑色LEDが点灯します。

3 ステータス・インジケーター

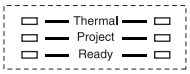


図3のステータスインジケーターが点灯した場合は、次のような状況を示しています:

THERMAL
アンプの温度が使用限界温度を越えると、赤色LEDが点灯し、アンプから音が出なくなります。アンプは自動的に切れて、温度が下がり、再び問題ない状態に戻ると自動的に復帰します。

PROTECT
この黄色LEDが点灯した場合は以下のいづれかの原因でアンプのプロテクターが働いていることを示します:

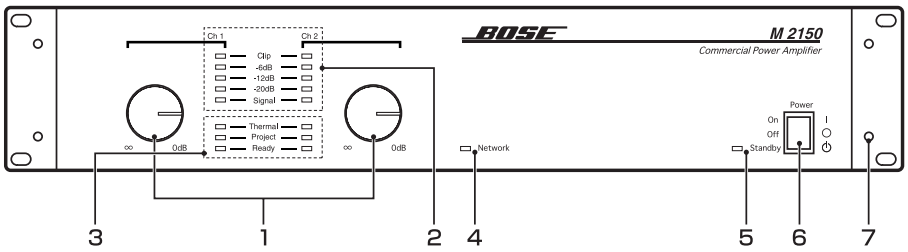
1. 過電圧、減電圧状態である。
2. 出力端子から過電流が流れた。
3. 出力端子をショートした。

これらのどの問題が起きても、アンプはすぐに両チャンネルの出力を停止します。このとき、アンプが自動的に切れて、問題が解決されたら自動的に復帰します。もし、プロテクターが働いた場合、全ての接続と、システムの機器のレベルをチェックして問題点を取り除いてください。

READY
アンプがONしているときは緑色LEDが点灯します。

4.0 Operation

4.1 フロント（前面）パネル



1. レベル（ゲイン）コントロール
2. ステータス・インジケーター
3. レベル・インジケーター
4. データ受信インジケーター
5. スタンバイ・インジケーター
6. 電源スイッチ
7. ラックマウント用金具（取り外し可能）

4 データ受信インジケーター

遠隔操作用入力端子部 (ACM-1) を挿入した場合、ネットワークからの信号を受信しているときに点滅します。

※遠隔操作用入力端子部 (ACM-1) については、
ボーズ株式会社プロシステム事業部〔Tel 03-5489-1066〕までお問い合わせください。

5 スタンバイ・インジケーター

電源が入っていないスタンバイ状態の時、黄色 LED が点灯します。

6 電源スイッチ

この電源スイッチは ON/OFF/ スタンバイの 3 ポジションスイッチです。
このスイッチが ON のとき、ステータス・インジケーターの READY の緑色 LED が点灯します。
このスイッチが OFF（中央の位置）のときは、電源は切れていて、シーケンス回路も働きません。
このスイッチがスタンバイのとき、電源は切れていますが、シーケンス回路が働いています。背面のAC POWER シーケンス端子に DC12V の電圧がかかるとアンプが ON になります(15 ページ参照)。

⚠ 注意

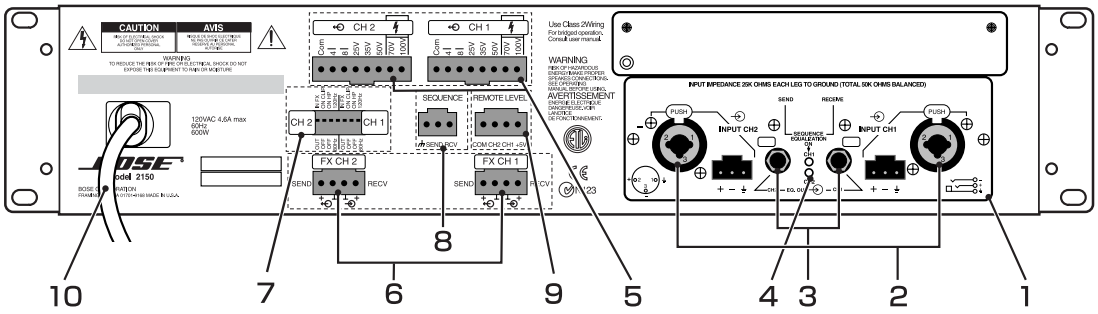
スタンバイ-シーケンスモードは標準の入力端子入力部を使用しているとしか使用できません。シーケンシャルモードの内容と使い方については 14 ページを参照ください。

7 ラックマウント用金具

⚠ 注意

ラックマウント用の取付金具は取り外すことができます。取り外した金具を再びシャーシに取り付ける場合は、

シャーシの強度を保つために新しいネジを用意してシャーシにしっかり取り付けてください。



1. 入力モジュール
2. 入力端子
3. EQ OUT（イコライザー出力端子）
4. イコライザー LED
5. スピーカー出力端子
6. 外部エフェクター接続端子
7. ディップスイッチ
8. シーケンサー接続端子
9. リモート・レベルコントロール端子
10. 電源ケーブル

4.2 リア（背面）パネル

1 入力モジュール

ボーズ・M2150アンプは、この入力モジュールに、CH1、CH2別々にイコライザーカード装着口（スロット）が装備されていますので、オプションキットとして用意されているイコライザーカードを使えば402シリーズ、502A、502B、802シリーズなどのスピーカー用にCH1、CH2別々のアクティブ・イコライゼーションをかけることができます。

入力モジュールの詳細は、ページ24を参照してください。

2 入力端子

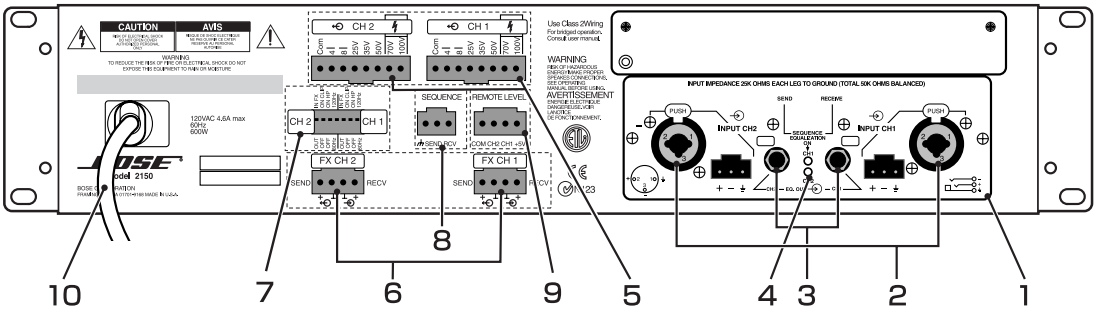
本機は、それぞれのチャンネルごとに2つの入力端子を備えています。この2つの入力端子はのうち1つは、標準ステレオ（モノラル）プラグと3PのXLRタイプの共用端子でどちらかの入力方法が選べます。もう1つの入力端子は、専用のクイックコネクターを使用しています。これらの入力端子は、内部で並列になっていますので、クイックコネクターで入力し、標準ステレオプラグで別のアンプへ信号を送るなどの使い方ができます。このクイックコネクターは、コードの先端をむいてネジではさみ込むだけで簡単に結線ができます。

♪**ご注意：**

このアンプをモノラル（デュアル・モード、ブリッジモノラル）で使用する場合は、CH2の入力端子だけを使用します。

4.0 Operation

4.2 リア(背面)パネル



1. 入力モジュール
2. 入力端子
3. EQ OUT(イコライザー出力端子)
4. イコライザー LED
5. スピーカー出力端子
6. 外部エフェクター接続端子
7. ディップスイッチ
8. シーケンサー接続端子
9. リモート・レベルコントロール端子
10. 電源ケーブル

3 イコライザー出力端子

標準ステレオジャックの出力端子は、それぞれのチャンネルのイコライズされた信号を出力します。この信号は、イコライザーカードを装着していれば、内蔵イコライザーカードを通ったものが出力されます(イコライザーカードの詳しい説明は、20 ページを参照)。同じ音源信号をいくつものアンプで再生する場合にアンプごとにイコライザーを使用しなくても、このイコライザーカードが装着されているアンプののEQ OUT 端子の信号を使えばイコライズされた信号としてもご使用になる機能です。

⚠ 注意

402-II、502A、502B、802-IIIのスピーカーを接続する場合は、必ず専用のイコライザーカードの装着されているチャンネル側の出力端子に接続してください。イコライザーカードと接続するスピーカーが対応していない場合、スピーカーにダメージを与える場合がありますのでご注意ください。
また、アンプ内部にイコライザーカードが内蔵されているにもかかわらず、さらにシステムコントローラーを信号にかけるような使い方は(2 重にイコライザーをかける)、絶対に行わないようにしてください。スピーカー破損の重大な原因になります。

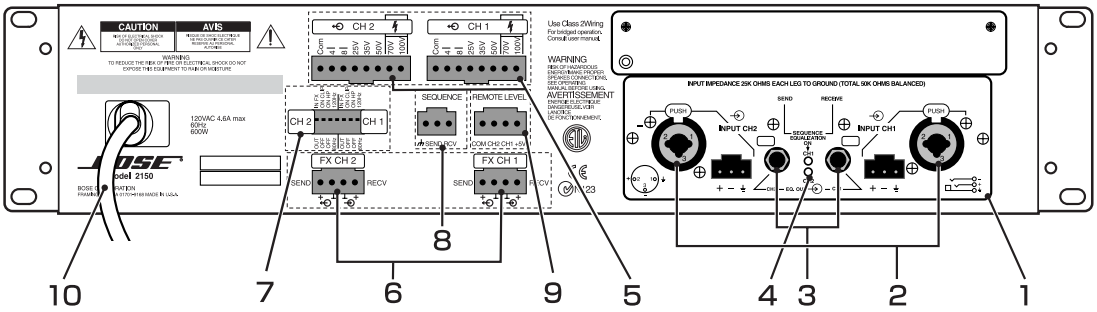
4 イコライザーLED

入力モジュールにイコライザーカードを装着すると、背面パネルのイコライザー LED がイコライザーが装着されていることを示すために点灯します。チャンネルごとに別々のイコライザーカードが使用できます。

⚠ 注意

本機は、自動的にイコライザーカードの有無を感知してイコライザーの回路に切り替えます。装着されていない場合は、イコライザー部分の回路をバイパスします。
また、アンプ内部にイコライザーカードが内蔵されているにもかかわらず、さらにシステムコントローラーを信号にかけるような使い方は(2 重にイコライザーをかける)、絶対に行わないようにしてください。スピーカー破損の重大な原因になります。

4.2 リア(背面)パネル



1. 入力モジュール
2. 入力端子
3. EQ OUT(イコライザー出力端子)
4. イコライザー LED
5. スピーカー出力端子
6. 外部エフェクター接続端子
7. ディップスイッチ
8. シーケンサー接続端子
9. リモート・レベルコントロール端子
10. 電源ケーブル

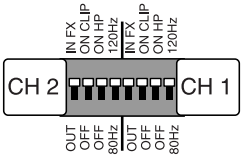
5 スピーカー出力端子

本機の出力端子はロー・インピーダンス接続（4 Ω、8 Ω)、ハイ・インピーダンス接続（25V、35V、50V、70V、100V）どちらでも接続できるように独立した接続端子があります。接続はスピーカーのマイナス側をCOM に、また、プラス側は接続する状況に合わせて接続します。

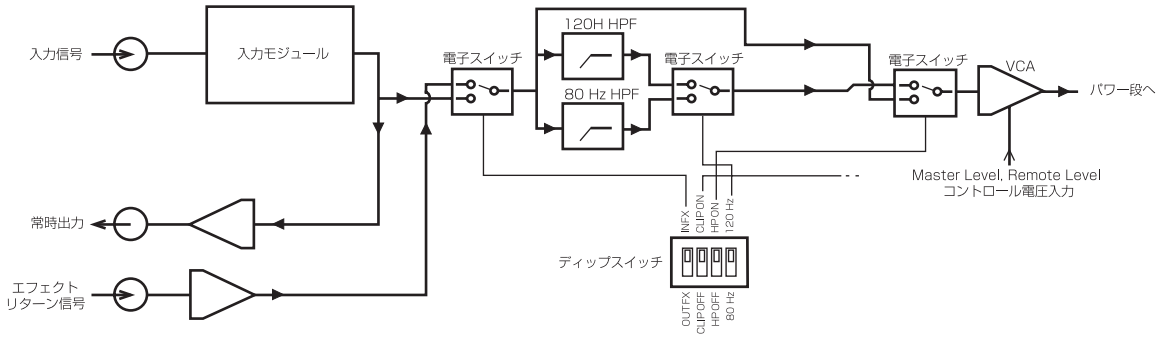
6 外部エフェクター(FX)接続端子

外部のエフェクターやプロセッサーへの信号のSEND（出力）とRECV（入力）をこの端子で行います。また、この端子はチャンネルごとに独立しています。この端子で送受信する信号は不平衡（アンバランス）信号で、+20dBu までのレベルを扱えます。

7 ディップスイッチ

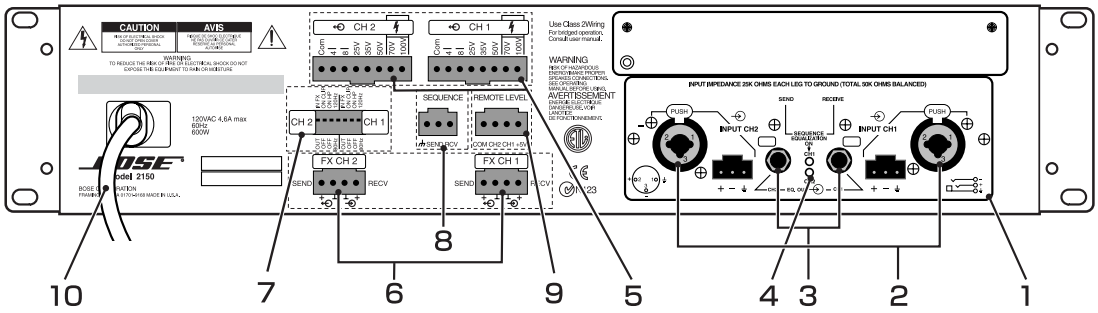


チャンネルごとに、Clip limiter（クリップ・リミッター)、Hight-pass filter（ハイパス・フィルター）および外部エフェクターのIN/OUT のディップスイッチを備えています。



4.0 Operation

4.2 リア(背面)パネル



1. 入力モジュール
2. 入力端子
3. EQ OUT(イコライザー出力端子)
4. イコライザー LED
5. スピーカー出力端子
6. 外部エフェクター接続端子
7. ディップスイッチ
8. シーケンサー接続端子
9. リモート・レベルコントロール端子
10. 電源ケーブル

FX（エフェクト）ループの IN/OUT
FX ループ有効にするか、バイパスするかを選べます。ON は、FX ループを使用する場合です。OFF はループを使用せず内部でショートします。FX 用信号の SEND（出力）/RECV（入力）端子はチャンネルごとに独立している 4- ピンのコネクターになっています。FX ループは、EQ、タイムディレー、リミッターなどのような外部エフェクターから不平衡（アンバランス）信号を送受信します。FX ループを有効にするためには、ON 位置にディップスイッチをセットしてください。SEND端子は常に信号が出力されています。この出力を別のアンプの入力端子に接続してアンプをデエイジーチェーン接続することもできます。RECV端子はFXディップスイッチを ON にすると有効になります。

クリップ・リミッター
ONにすると、出力段の入力に0dBを越える信号が入力さたときリミッターが働きます。出力段での信号のクリップを防ぎます。OFFにすると、信号にリミッターはかかりません。これは、過大なクリップ信号からアンプを保護する回路です。この回路は、クリップしていない信号には何も作用しません。回路の動作は、入力信号が大きくなればなるほど信号をクリップしないレベルまで圧縮する度合いを大きくしていくよう働きます。この回路の動作点は、固定されていてお客様が変更することはできません。

⚠ 注意

アンプの入力感度を絞り過ぎて、入力信号が入力段で歪むくらい過大にしてアンプを使用した場合、クリップ・リミッターは正常に働きません。アンプへ入力するための信号は、ミキサーやグラフィックイコライザーなどの機器部分で適性なレベルに調整してください。

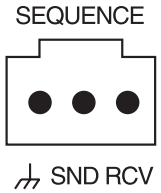
ハイパス・フィルターの ON/OFF
ハイパス・フィルターのオン / オフを選択します。ON にした時、ハイパス・フィルターは自動的にカット周波数の選択用ディップスイッチ（120Hz/80Hz）で選んだ周波数のハイパス・フィルターが働きます。OFF を選択すると、ハイパス・フィルターは働きません。

120Hz/80Hz(12dB/oct のハイパス・フィルター)
ハイパス・フィルターのカットオフ周波数を選びます。120Hz か 80Hz の選択が可能です。

8 SEQUENCE(シーケンス)コネクター

シーケンス・コントロールを行うための信号を送受信する端子です。このコネクター端子は左から右に、GROUND（シャーシ・アース）、SND（送り）および RCV（受信）の順になっています(下図参照)。

この機能は一台、または、多数のボーズ製アンプを 1 つの主電源スイッチで ON/OFF するときや、遠隔操作を行うことができる機能です。また、1 台目が ON されると約 0.5 秒の間隔で順次アンプが ON していくので、多くのパワーアンプを使った場合に起きる電源スイッチON時の突入電流でブレーカーが働いて切れてしまうことを防ぎます。また、停電後に電源が復活した場合にも電源が同時に ON する事がないので、突入電流でブレーカーの働いてしまうことを防ぎます。

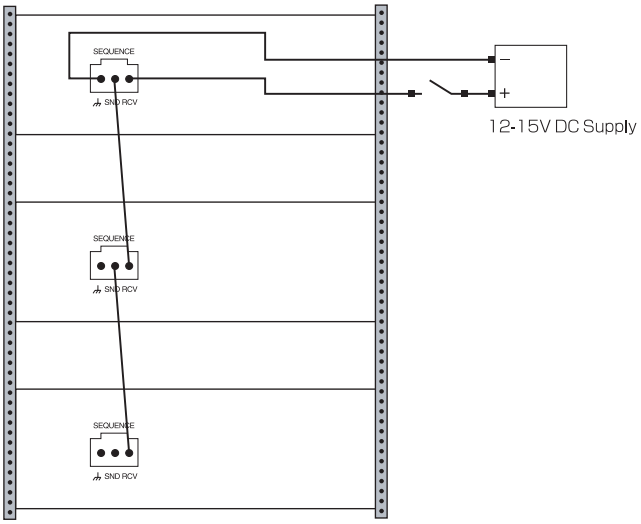


一台のアンプを ON/OFF するとき:

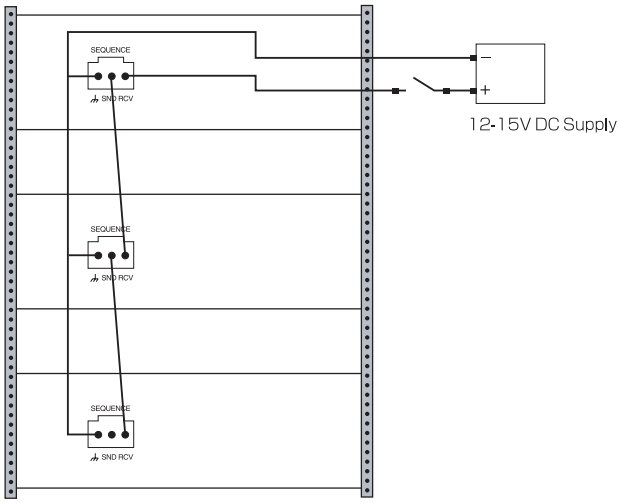
SEQUENCE コネクターの RCV 端子に 12～15 のプラス側を、GROUND 端子にマイナス側を接続します。RCV 端子へ電圧がかかっていると、アンプの電源が入ります。電圧が落ちると、アンプも切れます。RCV 端子に電圧を加える回路（機器）のスイッチとしては、一時的に回路を切るようなモメンタリースイッチではなく、ON か OFF のどちらかを維持し続けるラッチタイプのスイッチを使用してください。アンプの電源の ON/OFF を行うリモートコントローラーとしては、Creston、AMX、Panja などのシステム内のコンタクトクロージャーも使用することができます。

多数のアンプを連動させて ON/OFF するとき:

使い方は、始めに電源を入れるアンプの SND 端子から次に電源を入れるアンプの RCV 端子にコードをつなぎます。そして、そのアンプの SND 端子がさらに次のアンプの RCV 端子へつなぎます。つなぐアンプの数だけこの接続を繰り返します。アンプのシャーシがラックの金属レールを通して結合されている、または、全てのアンプのアースが共通の電源アースに落ちている場合、他に何も接続する必要はありません(下図7参照)。アンプのアースが共通になっていない場合はSEQUENCEコネクターのGROUND端子を接続してください(16 ページ上図参照)。



8 SEQUENCE(シーケンス)コネクター〔つづき〕



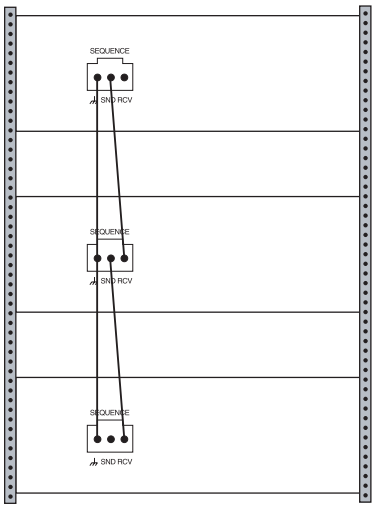
遠隔操作を行うときは、一番目のアンプのRCV端子に電圧を加えてください。アンプは0.5秒の間隔で順番にONしていきます。

♪ **注意:**

シーケンス動作をさせたいグループのアンプの電源スイッチは、すべてSTANDBY位置しておいてください。

RCV端子へ電圧を加えることを止めると、アンプの電源が切れます。システムにエフェクター、プロセッサーおよび音源の機器がある場合、スピーカー保護のため、アンプの電源を入れる前にそれらの機器の電源を入れるようにしてください。また、電源を切る場合はアンプよりも後にそれらの機器の電源を切るようにしてください。

遠隔操作は必要ないが、M2150を多数使用してシーケンスコントロール機能を使用する場合、外部の電圧供給の機器)を使用しなくてもシーケンスコントロールすることができます。一番始めのアンプのSND 端子から次のアンプの RCV 端子を接続します(下図参照)。第1のアンプ電源スイッチが他のアンプの電源をON/OFFするコントローラーになります。このとき、一番目のアンプ以外のアンプの前面パネル電源スイッチは、必ずSTANDBYの位置にしておいてください。前述のように、アンプのシャーシがラックの金属レールを通して結合されている、または、全てのアンプのアースが共通の電源アースに落ちている場合、他に何も接続する必要はありません。アンプのアースが共通になっていない場合はSEQUENCEコネクターのGROUND端子を接続してください。



アンプをラックマウントする場合、アンプのシャシーがラックレールによって共通アースに落ちているか確認してください。このとき、テスターを使用して各アンプのSEQUENCEコネクターのGROUND端子とラックレール間の直流抵抗を計ります。直流抵抗が0.2Ω以上ならば、16ページ上図のように各アンプSEQUENCEコネクターのGROUND端子をコードで接続してください。

直流抵抗が0.2Ω未満の場合は、ラックレールを通して共通シャーシアースがとれています。各アンプSEQUENCEコネクターのGROUND端子をコードで接続する必要はありません。

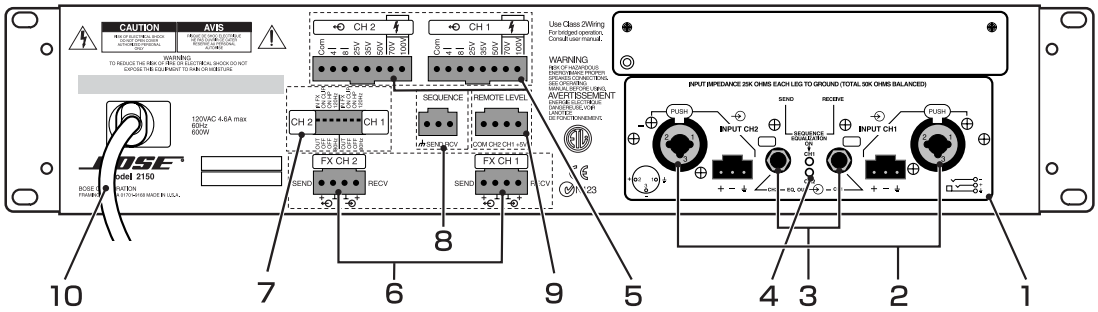
他のアンプとシーケンスコントロール機能を使用する場合

ボーズ社のモデル1600VIおよび1800VIはM2150と一緒に使用することができます。
しかし、モデル1600VIおよび1800VIのシーケンサー接続端子には、シャーシアース端子がありませんので、モデル1600VIおよび1800VIのシャーシのネジを使用してシャーシアースを取るようにします。この場合、入力モジュールを取り付けているネジを使用することをおすすめします。他の接続は前述の説明通りに行ってください。

♪ **注意:**

モデル1600VIおよび1800VIに関する詳しい内容はそれぞれの機器の取扱説明書をごらんください。

4.2 リア(背面)パネル



1. 入力モジュール
2. 入力端子
3. EQ OUT(イコライザー出力端子)
4. イコライザー LED
5. スピーカー出力端子
6. 外部エフェクター接続端子
7. ディップスイッチ
8. シーケンサー接続端子
9. リモート・レベルコントロール端子
10. 電源ケーブル

9 REMOTE LEVEL(遠隔のレベル)コントロール

1k～10kの逆対数カーブのポテンションメーターを使用します。つまみを完全に時計方向に回しきった時に摺動子がくる側のポテンションメーターの端子とREMOTE LEVEL入力端子のCOM(アース)端子を接続してください。

REMOTE LEVEL入力端子のCH1(あるいはCH2)コントロール電圧端子にポテンションメーターの中心端子(摺動子の端子)を接続してください。それぞれのチャンネルは、CH1 と CH2 のコントロール電圧端子を接続すれば、に印加された電圧によって独立してコントロールされます。両チャンネルのコントロール電圧端子を接続すれば、一台のポテンションメーターでコントロールすることができます。

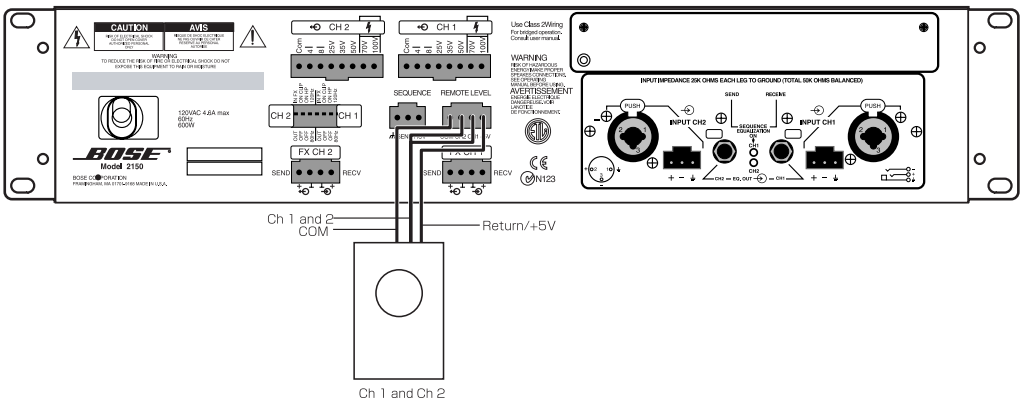
ポテンションメーターの残りの端子と REMOTE LEVEL 入力端子の＋ 5V 端子を接続してください。ポテンションメーターの 3 つの端子を接続すると、つまみを完全に反時計方向に回しきった(最小のレベル)ときにポテンションメーターの中心端子から＋ 5V 得られ、完全に時計方向に回しきった(最大のレベル)とき 0V になります。アンプ内では、コントロール電圧が 0V のとき、減衰量が 0dB(すなわち、そのチャンネルの前面パネルレベル・コントロールによってセットした減衰量)になります。コントロール電圧が 5V のときは、－ 100dB 減衰させます。コントロール電圧による推移は「線形 dB」です:2.5V のコントロール電圧入力は、－ 50dB:コントロール特性は -1dB/50mV です。

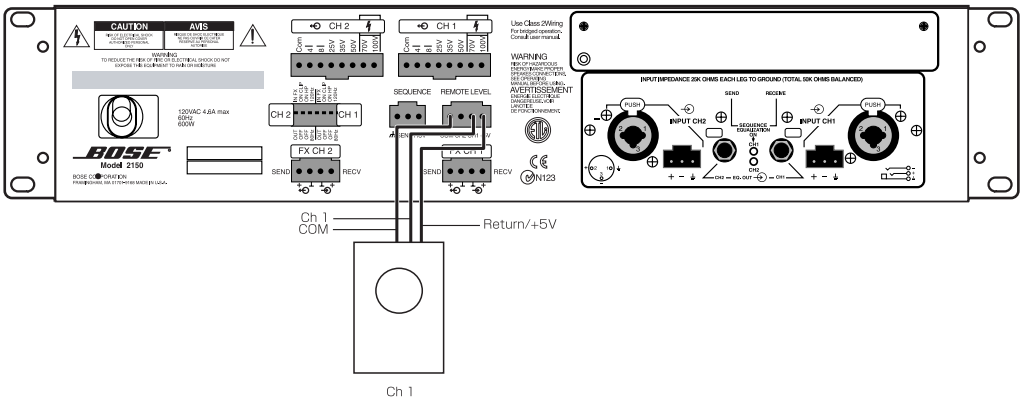
REMOTE LEVEL コントロール配線推薦

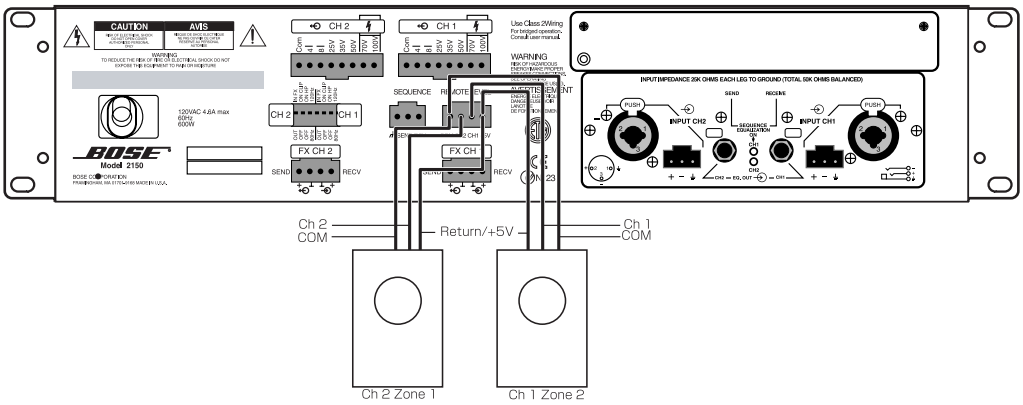
可能であれば、＋ 5V 端子と COM 端子の接続に、24AWG 以上のコードを使用してください。24AWG コード 1 本のあたり 25mW/1foot の直流抵抗を持つので、5kW のポテンションメーターへ 24AWG(50W の合計ループ抵抗)のケーブルをを 1000 フィート使用することは、1% の電圧降下になります。これは、コントロール可能な電圧範囲が狭くなります。＋ 5V 端子と COM 端子間の電流が多く流れれば流れるほど、電圧降下の量は増加します;例えば、＋5V端子の出力をアンプの電源が入ったかどうかのインジケータとしてリモコンの LED を点灯させるために使用されたりすることも考えられます。前述の例からも、＋ 5V 端子と COM 端子間の電流にさらに 10mA の電流量の増加が、よりコントロール電圧の最大レベルの低下と、最小レベルの底上げをもたらして、コントロール可能な電圧範囲を 10% 狭めます。コントロール用の電圧はアンプ内で平均されるので、線間容量や RC ディレーは気にしなくても構いません。

♪ **注意**

COM端子からのケーブルの先をリモコンとしてのポテンションメーター部分でアースに落とさないでください。アース同士の電位差でCOM端子からのケーブルに電流が流れ、REMOTE LEVELコントロール機能に予期できない問題を引き起こします。







10 電源コード

商用電源 AC 100V のコンセントにプラグを確実に差し込んでご使用ください。電源は容量が十分足りることをご確認の上ご使用ください。本製品はAC100 V、50/60Hz、 600W（6 アンペア）の電源をご用意ください。

5.0 取り付け・装着・結線

5.1 イコライザーカードについて

入力モジュールの基板上にCH1、CH2別々にイコライザーカード装着口（スロット）が装備されていますので、オプションキットとして用意されているイコライザーカードを使えば402-Ⅱ、502A、502B、802-Ⅲなどのスピーカー用にCH1、CH2別々のアクティブ・イコライゼーションをかけることができます。

たとえば1台のM2150をステレオモードで使用する事で、402-Ⅱ、502Aあるいは802-Ⅲを片チャンネル鳴らし、同時に残りのチャンネルで502Bを鳴らすというような使い方ができます。このイコライザーカードがチャンネルごとに装着できる機能によって、中高域用のスピーカーと低域用のスピーカーを鳴らすアンプを別々にするか（バイ - アンプ方式）、上記のように中高域用のスピーカーと低域用のスピーカー両方を 1 台のアンプで鳴らすかを選ぶことができます。

また、この機器は、内蔵されるイコライザーカードの組み合わせで自動的に信号の周波数分割を行います。たとえば、1台のアンプIに402-Ⅱのイコライザーカードと502Bのイコライザーカードを装着した場合、自動的に402-Ⅱのイコライザーカードの装着してある側のチャンネルの信号にHI-PASSフィルターがかかります（中高域チャンネル側の信号の低域がカットされます）。

また、2台以上のアンプを使用して、アンプごとに402-Ⅱ、502A、802-Ⅲなどの中高域用と502Bなどの低域用と分けて使用するバイ-アンプ動作の場合は、中高域に使用するアンプの背面パネルの入力モジュールの基板上のHF/Full Rangeスイッチを HF 側にします。低域用に使用するアンプの背面パネルの入力端子部基板上のHF/Full RangeスイッチはHF側でもFull Range側でもかまいません。ベース用のイコライザーカードには、あらかじめLOW-PASSフィルターが内蔵されていますので、外部から入力する音源にLOW-PASSフィルターをかける必要はありません。

イコライザーカードが必要な場合は、製品をお買上になった販売店にご注文ください。

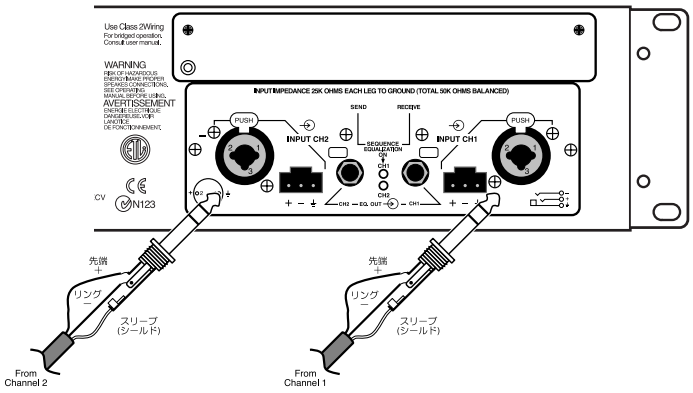
M2150にイコライザーカードを組み込んでご使用になるときのご注意

イコライザーカードをM2150に組み込んでご使用になる場合は、イコライザーカードの種類とご使用になるスピーカーの種類が必ず適合していることをご確認ください。イコライザーカードとスピーカーの種類が適合していない場合、スピーカーを破損させる原因になります（使用するスピーカー専用のアンプとしてご使用ください）。

また、M2150内部にイコライザーカードが内蔵されているにもかかわらず、さらにシステムコントローラーや、ユニバーサルコントローラーを信号にかけるような使い方は（2重にイコライザーをかける）、絶対に行わないようにしてください。スピーカー破損の重大な原因になります。このような使い方をして機器を破損させた場合は、お客様のご使用方法のミスとなり、保証期間内でも製品の保証が受けられないことになります。十分にご注意ください。

イコライザーカードについてのご相談、ご質問は、
ボーズ株式会社プロシステム事業部〔Tel 03-5489-1066〕までお問い合わせください。

5.2 入力端子への接続について

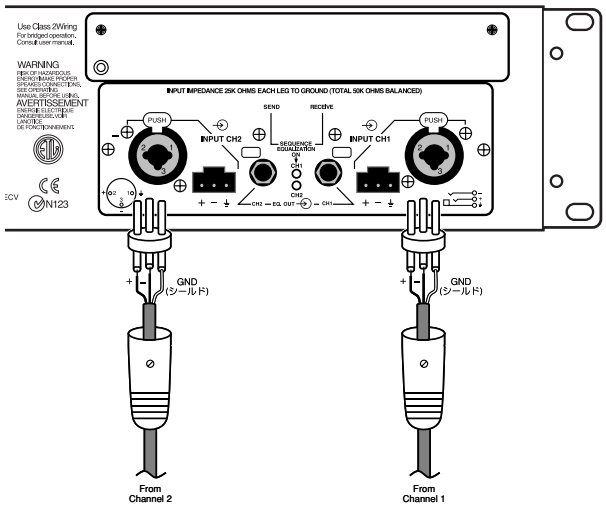


標準ステレオプラグの極性について

5.2.1 バランス入力について

標準ステレオプラグを使用する場合

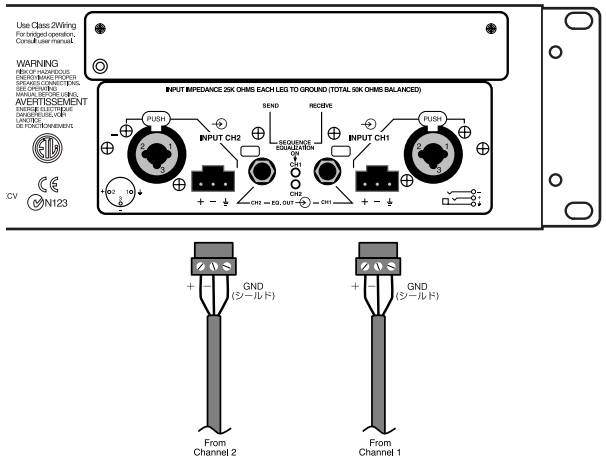
先端を⊕（HOT）、サイドを⊖（COLD）、スリーブをグラウンド（シールド）に接続します。



XLRタイプのコネクターの⊖の極性について

XLR タイプのコネクターを使用する場合

2番ピンを⊕(HOT)、3番ピンを⊖(COLD)、1番ピンをグラウンド（シールド）に接続します。



クイックコネクターの極性について

クイックコネクターの場合

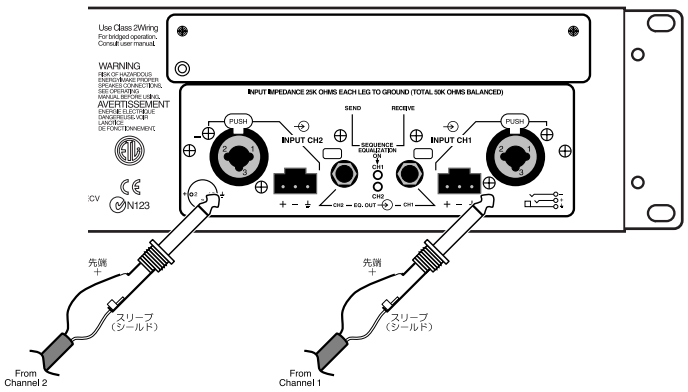
3番ピンを⊕(HOT)、2番ピンを⊖(COLD)、1番ピンをグラウンド（シールド）に接続します。

※クイックコネクターのピン番号は、アンプの背面パネルに向かって左から 3、2、1 番です。

5.2.2 アンバランス入力について

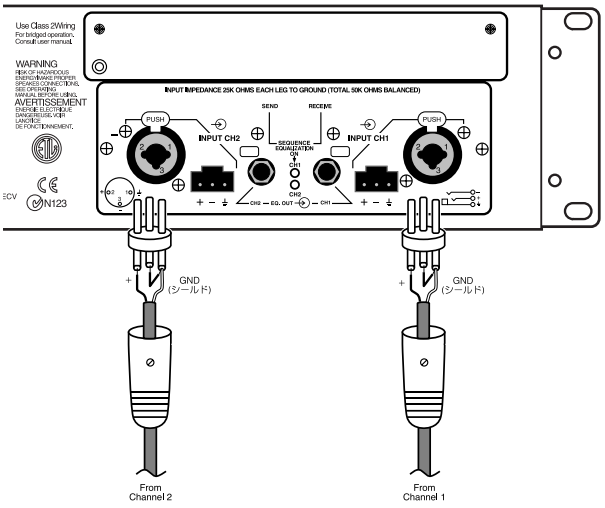
注意:

入力がバランスでもアンバランスでもゲインはかわりません。しかし、バランスで送られてきた信号を入力端子の部分でアンバランスに変更した場合 6dB ゲインが下がりますのでご注意ください。



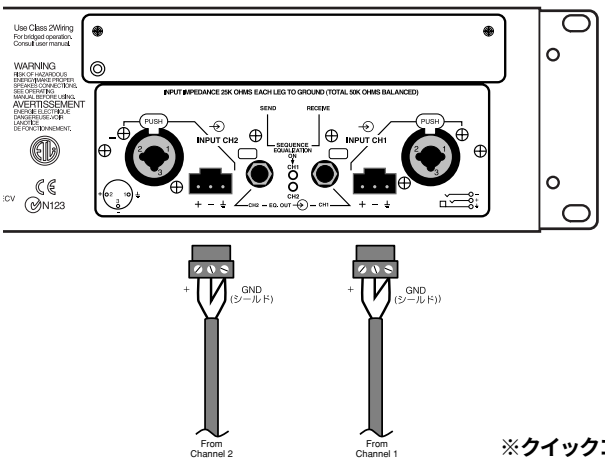
標準モノラルプラグの極性について

標準モノラルプラグの場合
先端を⊕(HOT)、スリーブをグラウンド(シールド)に接続します。



XLRタイプのコネクターの極性について

XLRタイプのコネクターを使用する場合
2番ピンを⊕(HOT)、1番ピンと3番ピンはグラウンド(シールド)に接続します。



クイックコネクターの極性について

クイックコネクターの場合
3番ピンを⊕(HOT)、2番ピンと1番ピンをグラウンド(シールド)に接続します。

※クイックコネクターのピン番号は、アンプの背面パネルに向かって左から 3、2、1 番です。

5.3 スピーカー出力について

アンプのスピーカー出力端子は、20～12gaugeまでケーブルを使用することができます。20gaugeよりも細いケーブルは使用しないでください。また、ケーブルのグレードはクラスI(NEC)配線を使用してください。

スピーカーとアンプとを接続するためのケーブルは、スピーカーとアンプとの距離が離れれば離れるほどより太いケーブルが必要になります。下記の表は、使用するケーブルの長さとその場合の最低限必要なケーブルの太さを表したものです。実際のご使用に当たっては、なるべく表記のものより太いものをご使用ください。表中のゲージ値は、数字が小さくなるほどケーブルは太くなります。

ロー・インピーダンス接続時の長さと太さ（4Ω、8Ω）

ケーブルの長さ 以上 ～ 未満	ケーブルのゲージ
0 ～ 9m	20gauge
9m ～ 13m	18gauge
13m ～ 22m	16gauge
22m ～ 36m	14gauge
36m ～ 54m	12gauge

ハイ・インピーダンス接続時の長さと太さ（25V、35V、50V、70V、100V）

ケーブルの長さ 以上 ～ 未満	ケーブルのゲージ
0 ～ 225m	20gauge
225m ～ 450m	18gauge

5.3.1 スピーカー出力端子の極性について

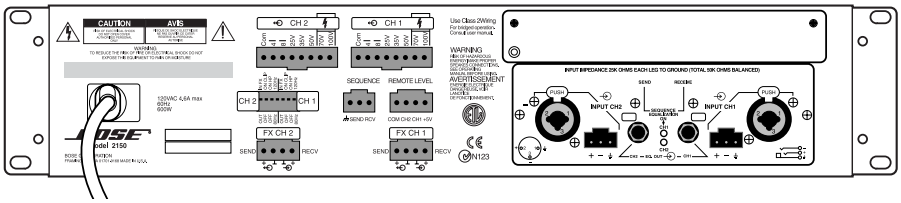
●スピーカーとアンプを接続するときは、必ずアンプの電源を切ってから行ってください。

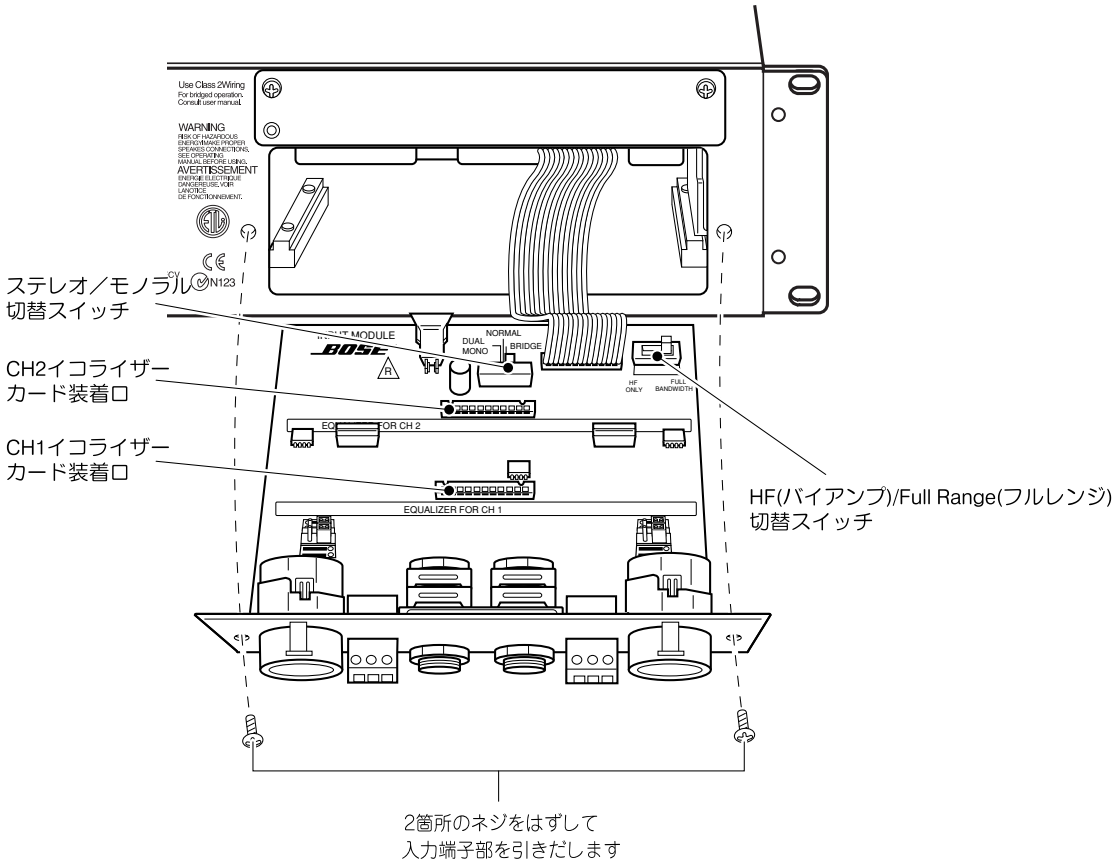
●スピーカーケーブルは、スピーカーの⊕側端子とアンプの⊕側端子を、スピーカーの⊖側端子とアンプの⊖側端子を確実に接続してください。

※スピーカーケーブルの極性(⊕、⊖)をまちがえますと、音の定位がフラついたり低音が出なくなったりします。

5.0 Installation

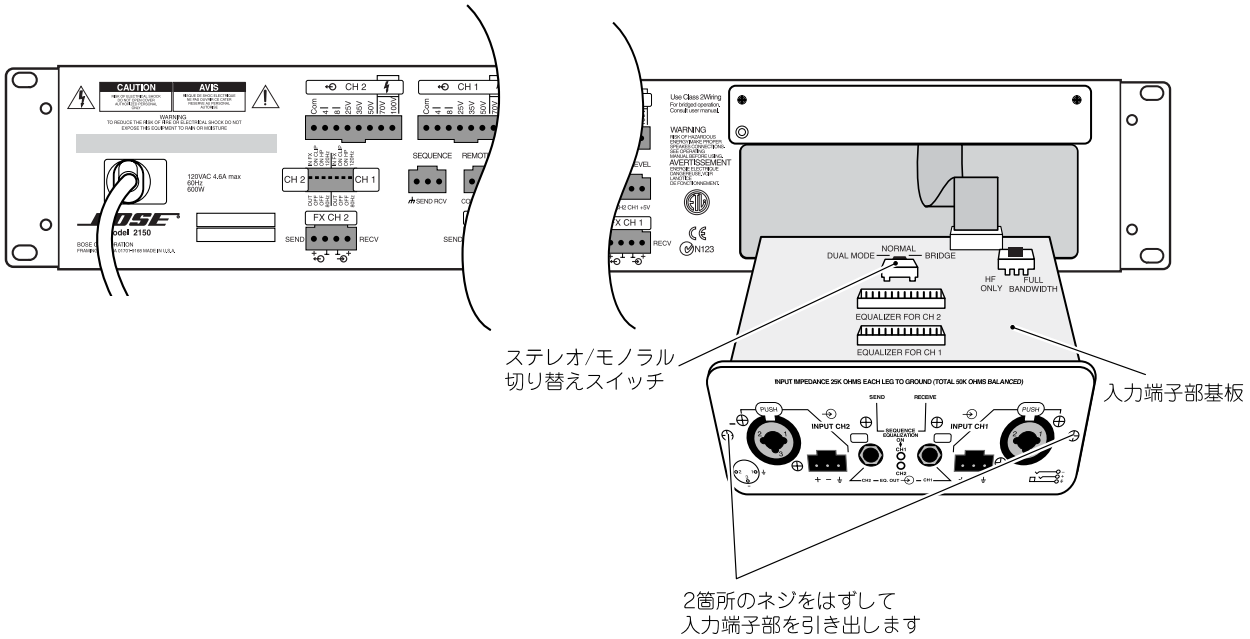
5.3.2 各設定スイッチの位置詳細図





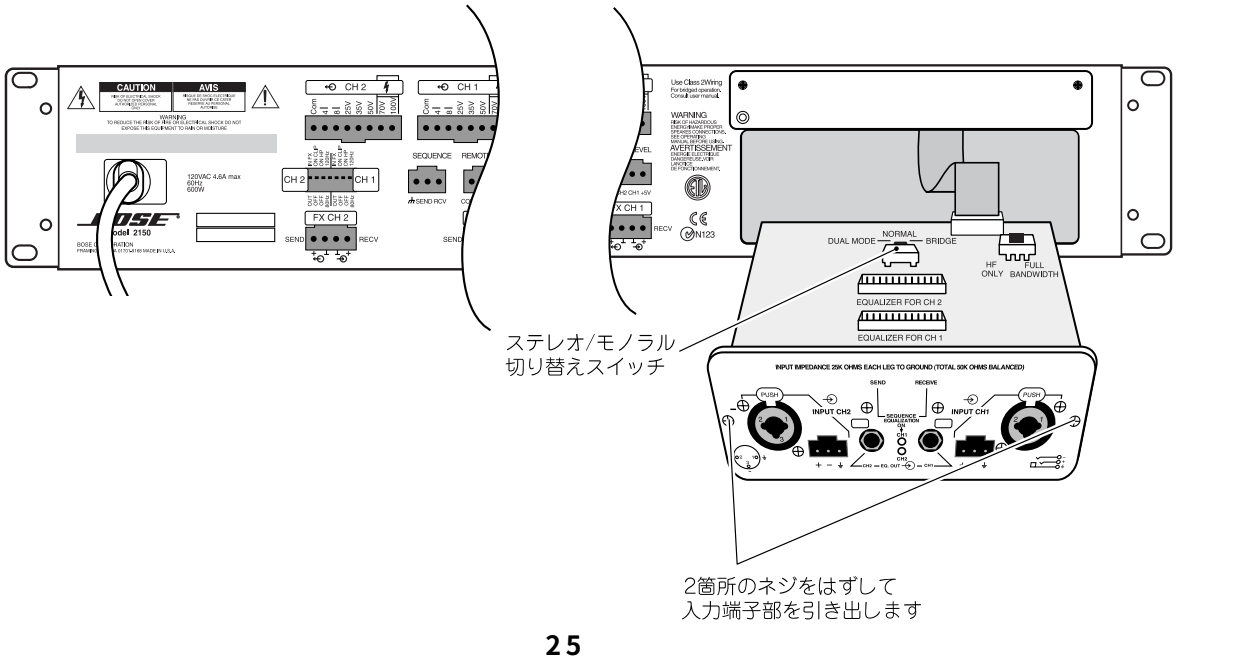
5.3.3 ステレオ／モノラルスイッチ

背面パネルの内部の入力モジュール基板上にあるステレオ／モノラル切り替えスイッチでこのアンプをデュアル・モード、ノーマル・ステレオ、ブリッジ・モノラルの 3 種類のモードに切り替えます。ノーマル・ステレオ（ NORMAL STEREO）モードの場合は、CH1 と CH2 の両方の入力端子を使用します。デュアル・モード、ブリッジ・モノラルモード（DUAL MODE、BRIDGED ）の場合、使用する入力端子は、CH2 のみ使用します（27 ページ参照）。



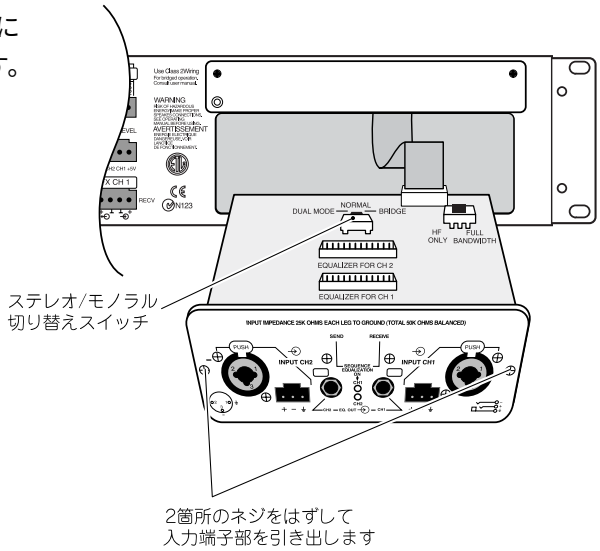
5.4.6 HF（バイアンプ）／Full Range（フルレンジ）スイッチ

このスイッチは、背面パネルの入力モジュールを引き出した基板上にあります。内部にイコライザーカードを装着したときのみ、このスイッチは有効になります。このスイッチの働きは、このスイッチを HF 側にすると両方のイコライザーカードの高域信号のみ出力します。内部の HI-PASS フィルターが高域信号を減衰させて出力します。同じイコライザーカードでフルレンジで使用したり、他にベースを追加するバイ - アンプで使用したりできるようにするスイッチです。この機能は、2 台以上のパワーアンプや 502B などのベースをシステムに追加する場合に便利な機能です。



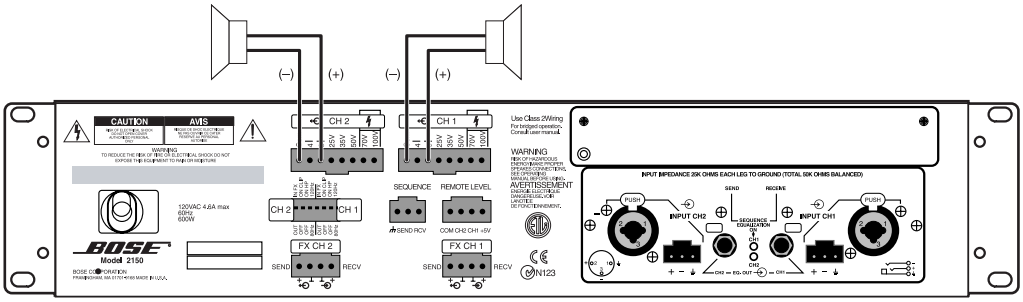
5.3.2 ステレオ/モノラル・モードの場合

ステレオ／モノラル切り替えスイッチが背面パネル内部の入力モジュール基板上にあります。このスイッチを中央のNORMAL（ノーマル・ステレオモード）にすると通常のステレオパワーアンプとして動作します。



スピーカー出力端子への接続

スピーカーケーブルの＋側をCH1のシステムプランのインピーダンスまたは定電圧伝送時の電圧に合ったスピーカー出力端子（4 Ω、8 Ω、25V、35V、50V、70V、100V）に接続します。
次に㊀側を COM に接続します。CH2 側も同様に接続してください。



5.3.4 ブリッジ・モノラルの場合

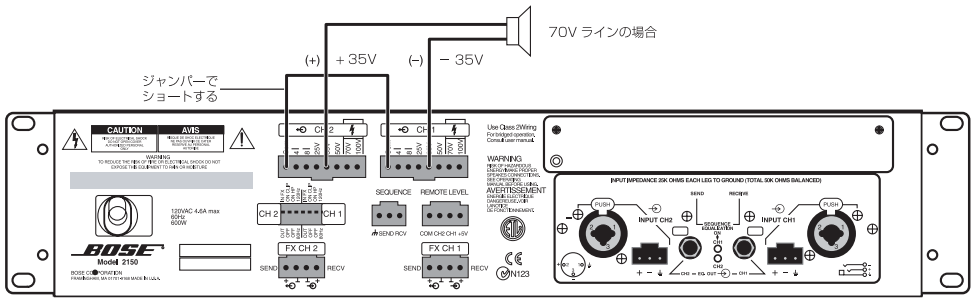
スイッチが背面パネル内部の入力モジュール基板上にあります。ブリッジ・モノラルで使用する場合、基板上のステレオ／モノラル切り替えスイッチを1番右側のBRIDGEDの位置に合わせます。信号は、入力端子CH2から行います（CH1は回路的に切れますのでCH1から信号は入力できません）。

スピーカー出力端子への接続

スピーカーの接続は、CH1、CH2両方のスピーカー出力端子の⊕側にケーブルを接続します。その場合の極性は、CH2が⊕（HOT）CH1が⊖（COLD）になります。システムプランの伝送方法に合った端子（4Ω、8Ω、25V、35V、50V、70V、100V）に接続します。

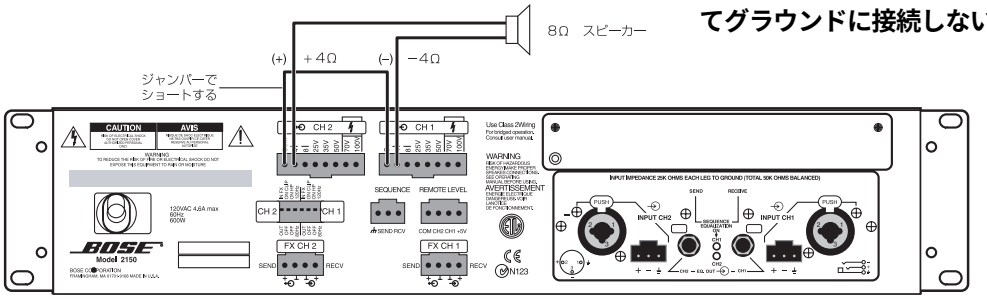
ハイ・インピーダンス　ブリッジモノ・モード

CH 1		CH 2		ブリッジモード
25V	＋	25V	＝	50V
35V	＋	35V	＝	70V
50V	＋	50V	＝	100V
70V	＋	70V	＝	140V
100V	＋	100V	＝	200V



ロー・インピーダンス　ブリッジモノ・モード

CH 1		CH 2		ブリッジモード
4	＋	4	＝	8
8	＋	8	＝	16



⚠ 注意

ブリッジ・モノラルで使用する場合、使用するスピーカー出力端子は両方とも電圧がかかっていますので（アースになっていません）、決してグラウンドに接続しないでください。

⚠ 注意

ブリッジ・モノラルで使用する場合は、スピーカーのインピーダンスが8Ω以上のものをご使用ください。8Ωより小さいものをご使用になりますとアンプの故障の原因になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

ブリッジ・モノラルモードでは、両チャンネルが全く同じ入力感度および出力レベルでないとバランスがくずれてアンプの故障の原因になります。チャンネル間の出力レベルのずれを防ぐために前面パネルのレベルコントロールは、必ず同じレベルにセットしてください。

5.3.4 デュアルモノ・モードの場合

ステレオ／モノラル切り替えスイッチが背面パネル内部の入力基板上にあります。このスイッチを一番左側の DUAL MONO MODE（デュアルモノ・モード）にすると CH2 から入力した信号が CH1、CH2 両方のスピーカー出力端子から出力されます（CH1 につないでも信号は出力されません）。スピーカーの接続は、26 ページのステレオ / モノラルモードと同様に行ってください。

6.0 故障かなと思ったら？

修理に出す前に本取扱説明書と下記の表にしたがってチェックしてみてください。チェックしてもなお症状が改善されない場合は、お買上になった販売店かボーズ株式会社修理担当部門までご連絡ください。

症　状	解　決　方　法
音がでない／電源が入らない （通常このような症状は、電源コードかアンプの電源部に問題があります）	・アンプの電源が入っていない場合はスイッチを入れる。 ・ラインケーブルが接続されていない場合は正しく接続する。 ・電源のコンセントや、入出力端子部分の接触不良の場合は別のコネクターやコンセントで試してみる。 ・コンセントに電源が来ているかどうかテスターやランプなどでチェックする。 ・本体のヒューズが切れているならばヒューズを交換する。 ・本体内部の電源トランスの温度ヒューズが切れているならば十分温度が下がると自動復帰するのでアンプを休ませる。
電源は入るが出力レベルが小さい／出力がでない （通常このような症状は、信号かケーブルもしくは機器内部の部分的な回路の短絡に起因しています）	・入力レベルボリュームの設定が低すぎるようならば設定し直す。 ・音源の方に問題がないかチェックする。本機の入力端子につながっているプラグを別の問題がないことの確認されているパワーアンプにつなぎ直してみる。 ・他のケーブルよりも細いケーブルを使用していないかどうかチェックする。 ・スピーカーに間違いなく接続されているかチェックする。 ・ブリッジ・モノラルで使用している場合、ステレオ／モノラル切り換えスイッチが正しく設定されているかチェックする。 ・アンプを動作限界付近でに使用している場合は、アンプに供給されている電源電圧が下がっていないかどうか電圧計などでチェックする。
再生時にノイズがでる	・ケーブルに不具合がないか調べる（交換してみる）。 ・すべてのネジ部分が確実にしまっているかどうかチェックする。 ・信号ケーブルが電源ケーブル、電源トランス、モーターその他ノイズを発生するものに近接したりしていないかチェックする。 ・パワーアンプに別の音源を接続してみてノイズが止った場合は、つなぎ変える前の機器に問題があると考えられる。
音が歪む （通常このような症状は、ミキサー、イコライザー、クロスオーバーネットワークなどの機器が十分な出力を供給できていないか、出力の上げ過ぎでクリップしているか、もしくは、スピーカーのインピーダンスが低すぎて電流リミッターが働いているなどの原因によって発生します）	・レベル設定が低すぎると信号が途中で減衰して十分な出力が得られなくなるので、入力レベルコントロールをチェックする。 ・スピーカーの接続をチェックし、ネジ類は確実にしめこまれていることをを確認する。さらに、使用していないケーブルや余っているケーブルはショートなどの原因になるので取り除く。 ・最終的にアンプにかかる負荷が正しくなっているかを確認する。
不自然な音 （周波数帯域のある帯域が他の帯域とバランスがとれていない状態）	・イコライザーカードを調べる。使用しているスピーカーに適合しているイコライザーカードを使用しているか、また、イコライザーカードの装着されているチャンネル側のスピーカー出力端子を使用しているかどうかも調べる。

故障の場合のお問い合わせ先

故障の場合のお問い合わせは、**ボーズ・サービスセンター株式会社　Tel 042-357-5250**
　住所　〒206-0035　東京都多摩市唐木田 1-53-9　唐木田センタービル
製品等のお問い合わせは、**ボーズ株式会社インフォメーションセンター　Tel 03-5489-0955** までご連絡ください。

A.1 M2150の主な特長

・標準プラグ、XLR タイプ、クイックコネクターの 3 種類の入力方法に対応した各チャンネル 2 つの入力端子を装備

・2 つの入力端子は、内部で並列接続

・バランス入力、アンバランス入力両方に対応

・CH1、CH2 独立のレベル（ゲイン）ボリュームを装備

・4 Ω、8 Ω、25V、35V、50V、70V、100V のロー / ハイインピーダンス接続可能。

・CH2 のみの入力で両チャンネル同一音源を再生可能（デュアル・モノラル動作）

・ブリッジ・モノラル使用によるハイパワー出力（8 Ω、16 Ω、50V、70V、100V、140V、200V）

・マルチアンプで使用する場合のシーケンス動作機能を装備

・ボーズ 402-Ⅱ、502A、502B、802-Ⅲ 各スピーカーに対応する内部装着用オプションイコライザーカードを準備

・バイアンプ／フルレンジ動作モード切り替えスイッチ装備（HF/Full Range スイッチ）

・ハイパスフィルター内蔵

・遠隔操作でレベルを変えることができるリモートレベル端子装備

・電源の Ready ／ ON、シグナル、クリップ／プロテクター動作表示のためのインジケーター装備

・遠隔操作用入力端子部（ACM-1）使用時のデータ受信インジケーター装備

・取り外し可能なラックマウント金具装備

A.2 仕様

定格出力　ステレオ / デュアルモノモード時：
150 W +150 W（8 Ω @1 kHz、THD 0.5%以下）
150 W +150 W（4 Ω @1 kHz、THD 0.5%以下）
150 W +150 W（100 V、67 Ω負荷 @1 kHz、THD 0.5%以下）
150 W +150 W（70 V、33 Ω負荷 @1 kHz、THD 0.5%以下）
ブリッジ・モノモード時：
300 W（8 Ω @THD 0.5%以下）
300 W（4 Ω @THD 0.5%以下）
300 W（100 V、67 Ω負荷 @THD 0.5%以下）
300 W（70 V、33 Ω負荷 @THD 0.5%以下）

出力端子
100V、70V、50V、35V、25V、8 Ω、4 Ω

周波数特性
30 Hz to 20 kHz (－3 dB)

チャンネルセパレーション
80 dB 以上 at 1 kHz

入力インピーダンス
25 k Ω（アンバランス入力時）
50 k Ω（バランス入力時）

入力感度
0.775 V（at 1 kHz）

S・N 比
95 dB 以上

最大電圧利得
＋20 dB（7.75 V）

全高調波歪率
0.5%以下（定格）、0.2%以下（定格の 1/8）

混変調歪率
0.2%以下

消費電力
600 W（4 Ω連続）

電源電圧
AC100V50/60 Hz
ご注意
使用になる電源が十分容量的に耐えられることをご確認ください。

外形寸法(H x W x D)
89mm x 483mm x 401mm

質量
15.9 kg
17.2 kg（Gross）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

B.1保証

保証の内容および条件は、付属の保証書をご覧ください。

B.2修理について

もし、修理等が発生した場合は、お買上になったお店または、ボーズ・サービスセンター株式会社までご連絡ください。

ボーズ･サービスセンター株式会社　Tel 042-357-5250
住所　〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9　唐木田センタービル

Better sound through research®
ボーズ株式会社

〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷YTビル
TEL 03-5489-0955　　http://www.bose.co.jp/

OM-1236
04･10-0.05K-C･1(I-M)